韓国、迅速な特許審査で「バイオ５大強国」へ！

韓国特許庁は、バイオ分野の特許審査の専担組織が発足し、同分野で「特許ファストトラック」が本格的に稼働することを発表しました。企業など出願人は、最大２ヶ月以内に特許審査の結果を受けることができるようになり、迅速に特許権を確保することで世界的な競争力を備えることができると期待されています。

詳細には、韓国特許庁は最近、政府が「新たな成長の動力源」として提示したバイオ分野を積極的に支援するため、バイオ産業生態系全分野に対する専門的な審査が可能となるように４つの部署を新設し、１つの部署を改編して計５つの部署と120人規模のバイオ分野専担審査組織を発足させたことを明らかにしました。

バイオ分野は国家の先端戦略技術であり、韓国の未来の核心成長動力として、2027年には全世界の市場規模が約３兆3,000億ドルに到達することが見込まれています。また、研究開発（Ｒ＆Ｄ）に莫大な時間と費用がかかる一方で、少数の優れた特許でも製品化・収益創出、及び長期間の市場支配が可能な特徴を有しており、先制的・戦略的な特許権確保のために、企業は迅速な審査を求めている分野です。直近の５年間で、韓国内のバイオ（バイオテクノロジー及びヘルスケア）分野の特許出願も年平均8.2％ずつ急増し、全体の特許出願増加率（2.3％）の約3.5倍に達しています。

特許庁はこれに対応して、2025年２月に民間のバイオ分野の専門家35名を審査官として採用し、バイオ分野を優先審査の対象に指定しました。これに加えて、今回の専担審査組織の新設により、韓国内企業の革新技術に対して高い付加価値を有する安定的な特許確保の支援が可能となりました。

新たに発足する「バイオ基盤審査課」「バイオ診断分析審査チーム」「バイオ医薬審査チーム」（以下、生命工学分野）、「ヘルスケア機器審査チーム」および「ヘルスケアデータ審査チーム」（以下、ヘルスケア分野）は、バイオ産業生態系の全過程に対応した審査組織体系を有し、より効率的かつ一貫した特許審査が可能となったという評価を得ています。

また、韓国特許庁は、新たに採用された35人の審査官と、既存の各審査局に散在していたバイオ分野の審査官85人を専担審査組織に集中的に配置しました。計120人のバイオ分野の審査官の審査力量を集結させることで、協議審査などを通じて審査品質を高めるとともに、現在18.9ヶ月所要される審査処理期間も、優先審査を適用した場合、２ヶ月に短縮できるようになる見通しです。

韓国特許庁長によれば、「今回組織を新たに設けることで半導体、ディスプレイ、二次電池に続いてバイオ分野にわたる４大国家先端戦略技術のための特許審査人材・制度・組織部門の支援体系が完成された」とし、「こ

のような支援を通じて、韓国企業が優れた技術を基盤として世界市場で優位に立つ礎となることが期待される」としました。

韓国特許庁が発表したバイオ分野の特許審査の強化と迅速化は、非常に戦略的かつ重要な動きであると評価できます。

1．バイオ分野への特化と専門性の強化

バイオ分野の審査専担組織を新設したことで、専門性の高い審査を提供できる体制が整備された点は、非常に重要です。バイオ分野は技術的に高度かつ細かな知識や経験を要するため、専門的な審査体制が整うことで審査の質の向上が期待されます。

2．迅速な審査制度「特許ファストトラック」の導入

特許審査のスピードが２ヶ月に短縮されることは、企業にとって大きな利点です。特許の権利化を迅速に進めることで、企業は市場での競争優位性を早期に確保できます。特に、バイオ分野は特許権の早期取得が新薬や新技術の開発・商業化に直結するため、企業の戦略的な投資判断にも大きな影響を及ぼすでしょう。

3．研究開発（R&D）と特許の重要性

バイオ分野ではR&Dに多大なコストと時間がかかるため、特許が企業にとって競争力を高める重要な資産となります。特許を早期に取得できることで、特許権を基にした収益化や市場支配が可能となり、企業の成長を支える大きな要素になるでしょう。

4．審査の質と審査官の集中的な配置

専任の審査官がバイオ分野に特化することで、審査の専門性が高まり、より質の高い審査が行われることが期待されます。また、審査官を集中的に配置することにより、審査の効率化と品質向上が見込まれます。審査官同士の協議や情報共有も促進されるため、審査結果の一貫性や精度が向上するでしょう。

今回の韓国特許庁のバイオ分野に対する戦略的な取り組みは、バイオ関連技術の発展と商業化を支援するために非常に重要な意味を有すると考えられます。特に、特許ファストトラック制度の導入と専門審査官の配置は、企業が競争優位を確立するための強力な支援策となり、今後バイオ分野におけるイノベーションの加速を期待させます。

筆者紹介

柳鍾宇（ユ　ジョンウ）

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は（株）LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は（株）サムスンの特許明細書作成／中間処理／外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。